

## 地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 ( 2-1 )

団体名	特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構	代表者名	(職名) (氏名) 代表理事 久 隆浩 戸田 幸典
事業名	丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクト		

### < 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」「毎 ○曜日」等で記入	場所	参加者 一般(ス ツ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
4月21日 5月2日 5月12日 6月30日 7月21日 7月26日 8月10日 8月23日 8月31日 9月15日 10月27日 11月1日 11月17日 11月28日 12月13日 1月7日 1月19日 1月26日 2月15日 2月22日 2月28日	丹波市教育 委員会 / 丹波市役所 / 丹波市市民 プラザ 他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトに関する打ち合わせ・ヒアリング・政策提言</li> <li>・ハンドブック作成・地域学校協働活動に関する人材育成事業に関する協議</li> <li>・ゲスト講師・報告者との打ち合わせ</li> </ul>
5月24日	丹波市内		丹波市地域学校協働活動推進員協議会（丹波市教育委員会社会教育・文化財課主管）へのオブザーバー参加
7月22日～ 8月8日	丹波市市民 プラザ		丹波市内のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取り組みに関するアンケート調査 ・調査対象：小学校 21 校、中学校 5 校 （学校運営協議会未設置の山南中学校は除く） 回答率：100%
8月26日	丹波市市民 プラザ	26人 (2人)	学校を核とした地域づくり講座 第1回 「丹波市では地域と学校の協働はどのように行われているの？」 ・報告者：地域と学校の連携・協働のコーディネーター 足立 恵一氏（丹波市教育部社会教育・文化財課 / 社会教育主事） 畑 英文氏（丹波市立春日部小学校 地域学校協働活動推進員） 金川 方子氏（丹波市立船城小学校 地域学校協働活動推進員）  ・意見交換・グループ交流 テーマについての意見交換 などグループで交流

9月10日	丹波市市民 プラザ	24人 (2人)	学校を核とした地域づくり講座 第2回 「学びと地域づくりを支える図書館の役割と地域・学校との連携」 ・講師：地域が元気になる図書館づくりの実践者 嶋田 学氏 (京都橘大学文学部教授 / 瀬戸内市民図書館もみわ広場元館長)  ・意見交換・グループ交流 テーマについての意見交換 などグループで交流
10月21日	丹波市市民 プラザ	22人 (2人)	学校を核とした地域づくり講座 第3回 「PTA活動とコミュニティ・スクールの連携」 ・講師：学校運営に保護者が参加するためのPTA改革の実践者 今関 明子氏 (特定非営利活動法人放課後学習ボランティア支援の会代表 / 元神戸市立本多聞中学校 PTA会長) 福本 靖氏 (川西市教育委員会 教育推進部 理事 教育保育推進担当 / 元神戸市立本多聞中学校 校長)  ・意見交換・グループ交流 テーマについての意見交換 などグループで交流
9月27日～ 10月13日	丹波市内		地域学校協働活動推進員に対するアンケート調査(8名対象) 回答率：100%
11月8日 11月9日 11月15日 11月17日 11月22日	丹波市内		地域学校協働活動推進員に対するヒアリング調査(8名対象) (丹波市社会教育委員と連携して実施) 回答率：100%
12月14日	丹波市市民 プラザ	16人 (1人)	令和5年度全国公共図書館研究集会オンライン視聴会 「子ども・先生・地域を支える 図書館について一緒に考えませんか？」 ・基調講演「どうしたら図書館に子どもは来てくれるか？」 杉山 亮氏 (児童書作家) ・事例発表 「公共図書館による学校・教員・子どもへの支援」 庭井 史絵氏 (青山学院大学教育人間科学部教育学科准教授) 「新・学校図書館像ー学校図書館の捉えなおしー」 宮澤 優子氏 (高森町立高森北小学校 / 高森町子ども読書支援センター) 「地域をつなぐ図書館(学校・美術館との連携)」 棟田 聖子氏 松川村図書館館長) ・視聴後に意見交換を実施
1月21日	POPUP ホール		「学校と地域が共に考える学びの未来サミット」においてアンケート調査の報告資料配布
2月5日	神戸クリスタルタワー		令和5年度ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議・ひょうごボランティア基金助成事業報告会に参加
	丹波市市民 プラザ		丹波市立図書館とのコラボ展示の実施 「子ども司書が作成したPOPや図書」の展示

2月24日	丹波市立船城小学校 図書室・多目的ホール	46人 (3人)	<p>ふりかえり交流会 「子どもたちの学びを支え、地域とのつながりを生み出す図書館の可能性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波市内の実践報告 今年度のプロジェクトのふりかえり 特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構 スタッフ 蔦木 伸一郎（社会教育士）</li> <li>子ども司書養成講座の取り組み 丹波市立図書館 高見 弘子氏 学校図書サポーターの取り組み 学校図書サポーター 宮崎 千枝美氏・永井 暁美氏</li> <li>・ゲストスピーカーの報告 図書館や情報を活用できる子どもたちを育てる実践者 宮澤 優子氏 （高森町立高森北小学校・高森町子ども読書支援センター司書）</li> <li>・意見交換・グループ交流 活動報告の感想、テーマについての意見交換 などグループで交流</li> </ul>
-------	-------------------------	-------------	---

#### < 効果と成果 >

地域学校協働活動や関連する取り組みの周知：延べ134人が参加。学校教職員、地域住民、市民活動団体、地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員、社会教育委員、自治協議会役員、行政職員、市議会議員。図書館職員、PTA役員等多様な主体が参加し、地域学校協働活動に対する理解が促進された。

当法人と行政、行政各部署間の連携が強化：実務担当者が講座、交流会における報告者として登壇。丹波市教育長の参加。ハンドブックの作成や地域学校協働活動推進のための人材育成事業の実施に向けて、教育委員会、まちづくり部市民活動課、たんえんの3者による会議を開催し、連携・協働が進んでいる。

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関する相談依頼の増加：

学校管理職研修会への講師派遣や市外の地域づくり団体の視察対応など、講師依頼が増加した。

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関する現状の把握：

小中学校や推進員に対する調査を実施し、学校の認識と推進員の取り組みを把握した。

#### < 今後の展望 >

小中学校アンケート調査により、学校と地域の連携・協働の学校側の主担当は、校長・教頭に集中しており、教職員や学校全体の取り組みになっていないことや、地域学校協働活動推進員の役割が学校側に十分理解されていない状況が分かった。これらを解決するためには、学校教育・社会教育・家庭教育・生涯学習が連携した「学校・地域連携カリキュラム」の検討が必要である。丹波市では小学校のふるさと学習、中学校のアントレプレナーシップ教育等で地域と関連した学習・探究の機会はあるが、系統的、継続的なものとしては取り組まれていない現状にある。

また、学校司書の配置について多くの学校において必要と感じていることが明らかになった。学校司書が子どもたちの学びを支える重要な役割を持ち、教職員の負担軽減にもつながることが理解された。学校司書の配置に向けた取り組みがますます重要であると言える。公共図書館は学校図書館を支える存在として学校と地域がつながるきっかけとなるため、今後も公共図書館との連携・協働は継続的に取り組んでいく。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	500,000
事業収入	53,500
寄付金	32,615
自己資金	212,807
合計	798,922

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経費	給与手当	516,600	258,828
	謝礼金	157,895	157,895
	印刷費	28,198	28,198
	その他 (通信費等)	30,079	30,079
	小 計	732,772	475,000
間接経費 (一般管理費)		66,150	25,000
合 計		798,922	500,000